

「美」とは何か 1学期学年末テストより最終回

90歳まで真の絵描きを目指し続けた画狂老人

私は6歳より物の形状を写し取る癖があり、

50歳から数々の画図を描いてきた。

とは言っても、

70歳までに描いたものは本当に取るに足らぬものばかりである。

そのような私であるが、73歳になって

さまざまな生き物や草木の生まれと造りをいくらかは知ることができた。

ゆえに、86歳になればますます腕は上達し、

90歳ともなると奥義を極め、

100歳に至っては正に神妙の域に達するであろう。

そして、100歳を超えて描く一点は一つの命を得たかのように生きたものとなろう。

長寿の神には、このような私の言葉が世迷い言などではないことを

ご覧いただきたく願いたいものだ。

しかし北斎の願いは、神に届かなかった！彼は、90歳で亡くなるが、その時に

「天が、あと10年、いや、あと5年命をくれたなら、真正の絵師になれただろう」と言ったとか・・・すごいね！！

さて、さて、

◆君たちも知ってかもしれないが、この画狂老人は1998年にアメリカの有名なフォトジャーナル誌LIFEのミレニアム特集号「この1000年で最も重要なできごとと人物・100選」(The 100 Most Important Events and People of the Past, 1000 Year)の中で唯一紹介された日本人だ。

◆稀代の浮世絵師、北斎。ゴッホやモネに影響を与え、「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」は「The Great Wave」として世界で最も知られる作品の一。令和2年からの新パスポートに「富嶽三十六景」が採用され、新千円札の裏面にも。今、北斎は日本を象徴する存在でもある。

PS=あべのハルカス美術館「ポーラ美術館コレクション展～モネ・ルノアールからピカソ・シャガールまで～」が明日・明後日まで。印象派からキュビズムまでは是非ぜひ本物を！！

◆狩野派、琳派の作品にとどまらず、中国画や西洋画を学び、自流に取り入れ、70歳になってから「富嶽三十六景」「諸国滝廻り」に代表される風景版画のシリーズを発表。75歳で「画狂老人記」と改名して後は、肉筆画と絵本・絵手本を中心に画業を展開し、90歳でその狂人を終えた。

◆死を前にしてもなお、画家として理想を追求し続けた北斎が目指した神の領域こそ、「美」と言えるのではないか！！

◆また「神奈川沖浪裏」には、西洋の黄金比が使われている。また陰影法や透視図法を西洋から北斎は学んでいた。本当に絵画「美」を通じた文化交流だった！！

◆北斎の芸術「美」は

- ①ダ・ヴィンチと双壁をなす、科学的視点に基づく「美」であり
- ②19C後半～20C前半期に活躍したポスターデザイナー（ミュシャ・ロートレック）も真似をし、それが新たな装飾芸術、アール・ヌーヴォーへと発展させた「美」であり
- ③ヨーロッパにジャポニズムを巻き起こした「美」であり
- ④だれひとり思いつかなかった、グラフィックデザイン的な構図力・構成力・描写力の「美」であり
- ⑤『北斎漫画』によってマンガという耳慣れた言葉が広く使われるようになった「美」であった。

◆美とは何か？難しいが、北斎の「富嶽三十六景」実際は四十六景には、時代を超え、地域を超え、人種を超えた普遍的価値＝「美」があるのではないか。驚き・共感と共に、常に新たな価値を生み、新しい発見がある「美」でもある。



さあ2学期は、日本美術史！！

◆浮世絵と共に世界に影響を与えた「琳派」と呼ばれる絵師がいる。江戸時代に現れた装飾的な作風を特色とし、俵屋宗達、尾形光琳・乾山、酒井抱一、鈴木基一といった絵師たちの一群をさす。琳派は、17C本阿弥光悦・宗達にはじまり、18C尾形光琳（弟：乾山）、19C酒井抱一（弟子：鈴木基一）と時間や場所、身分が遠く離れた人々によって受け継がれた。言葉ではなくそれぞれの造形に憧れ、影響を受けたんだね。つまり、光琳は100年前の宗達の画風に憧れ、抱一もまた100年前の光琳の画風に憧れたんだよ！素敵

◆そしてウィーン分離派のグスタフ・クリムトもまた「琳派」の造形に憧れた！